

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シュタイナー療育センター光こども園			
○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じて、10人クラスと5人クラスの2クラスに分けて、毎日通所型の療育を行っています。	子どもの様子や成長に応じて、クラス替えを行っています。散歩では運動面での発達別にグループに分けて、毎日1時間以上行っています。	少人数クラスは1部屋しかなく、個別療育の部屋がないので、今後増築等を検討しています。
2	作業療法士、理学療法士、音楽療法士、言語聴覚士、医師などと連携しながら、子どもの適切な支援を計画しています。	定期的に子どもの様子を見てもらい、発達の様子と支援の方法を伺い、職員間で共有して、日々の支援につなげています。	いろいろな時間帯で働く短時間勤務の職員への共有方法を今後検討していきます。
3	プログラミングされた療育ではなく、日々の散歩の中で、季節の手仕事の中で、生活をしながら療育を行っています。	天候に関係なく、どんな時も毎日散歩に行き、四季の移ろいを肌で感じ、楽しいことをしながら自然と体の動きが身につくようにしています。また、毎年同じ季節の活動をしていくことで、経験を積み重ねるようにしています。	地域の方とのふれあいや、事業所の企業内保育園との交流は、今後検討していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	いろいろな働き方の職員がいて、職員会議にでられない職員もいるため、子どもの育ちの共有や支援方法などを伝えられないことがある。	共有ツールの未確立	誰もが見られるツールを使って、子どもの日々の様子や、療法士からのアドバイス、活動についてなどを全職員と共有できるようにすすめていく。
2	長時間の預かり。	同じ建物で放課後等デイサービスも行っているため、長時間預かりのスペースがない。また職員の確保が課題。	午後の職員の確保。療育場所の確保。
3			